

JRの業務外注化と非正規雇用化に反対するニュースです。感想や意見、現場の情報をお寄せ下さい。info@doro-shien.site

首都圏7路線でワンマン化

「人ならではの創造的な仕事へシフト」と強弁

JR東日本が首都圏7路線のワンマン化を発表しました。車掌の人数を現在の4500人から1000人に減らすとされています。

許せぬ「創造的な仕事へシフト」

会社は「(ワンマン化を通して)社員の就業意識を『人ならではの創造的な仕事』へシフトさせる」と語っています。

運転士や車掌の仕事は「人ならではの」でも、「創造的」でもないというのでしょうか。誰が鉄道を運行し、安全を守っているのか。

駅は無人化・外注化、そして全面的なワンマン化で車掌も激減、すべての責任と負担は運転士——これが鉄道会社のやることでしょうか。



「大事なものは鉄道業務ではなく利益を生み出すこと」という会社の本音が現れています。

「人手不足」という会社の詭弁

会社はワンマン化の理由に「人手不足への対応」を挙げています。これは大ウソです。

そもそも、乗務員を確保しようと真剣に考えているなら、ジョブローテーションや融合化・統括センター化など行うはずがありません。

運転士・車掌の職名まで廃止し、「鉄道ありきで考えるな」と言われれば、「乗務員としてやっていけるのか」と思うのは当然です。

「いつ強制配転されるのか」「次は何をやらされるのか」という状況に職場を追い込んでおいて、なにが「人手不足」でしょうか。

ともに声をあげ、闘おう

会社がどんなに軽視しようと、鉄道を動かし、安全を守っているのは乗務員や車両検修、駅、保線、電力等の現場で働く労働者です。

現場からの団結した声と闘いにこそ、攻撃を打ち破る力があります。カギは闘う労働組合です。ともに声を上げよう。